

特集：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応について

エネルギーレジリエンスへの貢献

当社は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な拡大に際し、オペレーターを担うオーストラリアのイクシスLNGプロジェクト、国内の南長岡ガス田、直江津LNG基地をはじめ世界各地の原油・ガス生産操業において、従業員の健康・安全を最優先に様々な感染防止対策を講じながら、安定操業を着実に継続し、エネルギーの安定供給に努めています。なお、従業員に対する諸施策については、「コロナ禍における働き方（P88）」で紹介しています。

国名	対応策
オーストラリア (イクシスLNGプロジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> ● 隔離期間を含む特別シフトの導入や現場立ち入り前の問診・検温の実施 ● 寄港するLNG船等に対する各種制限・要請等
日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 現場への操業要員以外のアクセス制限 ● 感染者発生時に備えた予備人員の確保
米国 (シェールオイルプロジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> ● 操業現場の入構者に対する医療スクリーニングの実施や体温チェックによる感染監視対策 ● 感染者発生時の対策・復旧手順の確立
アラブ首長国連邦	<p>国営石油会社ADNOCのガイドラインに従った、操業現場立ち入り前PCR検査陰性確認の義務づけや検討等の感染リスク低減策の実施</p>



フェイスシールドとマスクを着用しての作業の様子(直江津LNG基地)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応について

コロナ禍での 安定供給・安定操業のための 各拠点の取組

オーストラリアのイクシスLNGプロジェクト、インドネシアのアバディLNGプロジェクト、国内の各操業拠点では、それぞれの拠点における政府からの要請や規制のもと、独自の取組で無事故・無災害に加えて、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、安定操業を達成しました。また、これらの取組の中から、当社グループの優れた取組を表彰する「2021年度コーポレートHSE表彰」に選定されたものもあります。

アバディLNGプロジェクトの気象・海象調査チームの 独創的なコロナ対策「仮想バブル」

インドネシアのアバディLNGプロジェクトにおいては、2020年に気象・海象調査活動を実施しました。同年初頭に陸上、沿岸、及び沖合に設置した19の海洋調査ステーションのデータ収集と機器メンテナンスのため、調査チームは2020年9月13日に船舶(NV NMSプリリアンス)でジャカルタからアラフラ海のアバディフィールドに出発し、10月10日にジャカルタに戻りました。

新型コロナウイルスへの接触を回避するために、検疫と複数のスクリーニングプロセスにより、乗船前の非感染確認のためのあらゆる対策を実施し、かつ、チームがあたかも仮想の「バブル」内に隔離されるように外界との接触を断つというアイデアと、万が一の緊急時への対応計画が策定され、この仮想の「バブル」が、調査活動全体を通して維持されました。「バブル」のアイデアを実現するために、通常は現地までの移動に空路を利用し約一週間の調査で完了するところを、船舶による5,600kmにわたる移動を伴ったため、調査は1か月にも及びました。

本調査活動が感染者ゼロかつ成功裏に完了したことを受けて、インドネシア国営石油

会社のSKK Migasの上流石油ガス事業活動特別タスクフォースのオペレーション副部長であるJulius Wiratno氏は、当社の取組をイノベーションの創出につながるものとして高く評価しました。また、プロジェクトのパートナーであるShellからも、2020年第4四半期の「Gold Hard Hat Safety Award」を授与されました。



気象・海象調査活動チーム

		特集		MATERIALITY								
目次・編集方針	トップメッセージ	今後の事業展開	COVID-19への対応	CSRマネジメント	ガバナンス	コンプライアンス	HSE (健康・安全・環境)	地域社会	気候変動対応	従業員	ESGデータ集	第三者保証報告書 外部評価

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応について

イクシス LNG プロジェクト COVID レスポンス チームの取組

オーストラリアのイクシス LNG プロジェクトにおいては、州をまたぐ人々の移動が制限されるなど、多くの制約を受けながらも複数のチームが絶え間なくサポートを提供することで課題に対処しました。

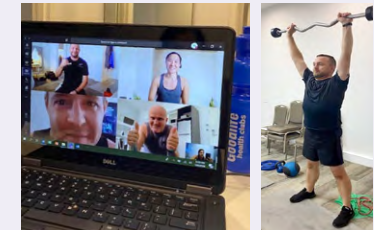
安全な生産活動を確保するために重要度の高いメンテナンス計画の洗い出しを行い、人員の出入りを最低限に抑えるために勤務シフトの見直しや作業員数の削減が行われました。また、従業員の疲労リスク管理手順の改善や、ストレス管理と回復力に関するワークショップの開催等、身体面及びメンタル面での健康状態の管理も行われました。勤務シフトへの変更にあたっては従業員との広範囲な協議が行われています。

さらに、感染対策の取組を体系的に管理・継続できるように事業継続計画が策定されま

した。危機対応チームと経営陣との報告体制を確立し、新型コロナウイルス感染症に対するリスクとアクションがマトリックスにまとめられ、リスクプロファイルの変化に迅速に対応できる体制が確立されました。

当社アセットに勤務する従業員に対しては、コントラクター等も含め、健康及び行動履歴を把握するシステムの導入が行われ、業務の効率化がされました。

これらの活動によって安定操業を続けることが可能になり、本プロジェクトは2020年において、当初の計画以上の生産量を達成することができました。



オンラインエクササイズで健康維持

国内の各操業拠点における取組

国内の各操業拠点では、安定操業を維持するべく、従業員の感染予防対策を策定しました。

- 当直勤務者は自宅通勤者と寮居住者の2グループに分け、業務内容を二分し接触を回避
- 会社寮は当直勤務者専用住居とし、当直以外は市中の賃貸物件に転居し接触を回避
- 事業所内で当直勤務者とそれ以外をゾーニングし、サテライトオフィスの活用で接触を遮断
- 当直交替時の申し送りをコンピュータ画面等により間接的に行い、シフト毎の接触を回避
- 当直勤務者への、感染リスクの高い場所への外出自粛協力の要請
- 健康チェックならびに検温の実施
- 週3回の事業本部コロナ対策会議にて、各種情報共有・懸案事項の検討・解決を実施

長岡鉱場においては、コントラクターとの協働作業を実施する際、海外からのエンジニア受入れが必要になったため、入国した作業員が国内で感染するリスクを低減するべく、入国後速やかに、感染者が少なく管理も行き届く長岡市内に作業員を滞在させました。そ

の上で、14日間の隔離措置期間後に対しても独自のガイドラインを定め、滞在場所・行動履歴の共有、体調管理、不要不急の外出を控える等の感染防止対策を徹底しました。また、作業中は、密な接触を避けるために、コントラクター別・部署別の現場待機所を設置し、生産プラントのオペレーターへの接触禁止も徹底しました。結果、感染者を出さずに無事故・無災害で作業を終えることができました。

直江津 LNG 基地においては、LNG・LPG 船の受入・荷役作業に当たり、船陸荷役従事者を新型コロナウイルス感染症から守るため、初の試みとして、船陸双方の従事者が接触することなく荷役を行う「非接触荷役」の運用を開始しました。これまでは LNG・LPG 船が着岸する際、基地側の荷役関係者が乗船し船側関係者と作業手順を確認後、各種作業に立ち会ってきましたが、電話や無線などのコミュニケーションツールを効果的に使用するなど、関係者と協議を重ねた上で作業手順を大幅に改善しました。「非接触荷役」を導入した結果、一人の感染者も出すことなく、無事故・無災害で天然ガスの安定供給に不可欠な原料である LNG・LPG の受入れに貢献しました。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応について

地域社会への貢献

当社は、医療関係者をはじめ、感染拡大防止のために尽力されている全ての方々や、困難に直面した地域社会の方々を支援するために、以下の取組を実施しました。

国名	対応策
日本	日本赤十字社及び自治体へのN95マスクの提供
オーストラリア	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部準州でのフードバンク緊急食糧支援活動への3万豪ドルの寄附 ● 北部準州のMenzies School of Health ResearchのCOVID-19対策支援への10万豪ドルの寄附 ● ブルームでの医療及び警察機関へのマスクの提供
インドネシア	タニンバル諸島県における医療従事者へのCOVID-19対策ポスター、化学防護服、医療用マスク、除菌液の提供
カザフスタン	同国に展開する外資企業と共同で、ヌルスルタン市医療機関への医療機器及び防護具の提供
米国	ヒューストン日本商工会を通じた義捐金の拠出



オーストラリア北部準州におけるフードバンク活動への寄附



インドネシアタニンバル諸島県における医療物品の提供